

卒業後3年次アンケート（平成31年度実施）集計結果

京都大学文学部・文学研究科では、卒業・修了して社会に出られた方や進学された方などから、改めて本学部・研究科を振り返って評価していただくために、卒業後・修了後3年次アンケートを実施し、その結果を公開しています。ご協力いただきました卒業生・修了生の皆様に、お礼申し上げます。

【実施時期】

令和元年10月24日～令和元年11月17日

【実施方法】

連絡先住所が判明する平成28年度卒業生159名に依頼状を郵送し、京都大学アンケート支援システムにて回答をお願いした。卒業生の回答は29、回答率は18.2%で、昨年度（回答数30、回答率29.7%）と回答数はほぼ変わらないものの、回答率は減少した。

【結果の概評】

Q.06「振り返ってみて、あなたは文学部で学べたことに満足していますか」では、「充分」または「それなり」を合わせるとほぼ90%が「満足している」と回答している。「満足できず、後悔している」という回答は0であったものの、「あまり満足していない」が2であった。この結果は昨年度と大きくは変わらず、例年卒業時に行っているアンケートの傾向とも一致し、文学部の教育に対する満足度の高さが窺われる。

Q.03「文学部での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について以下より選択してください」では、「一般的な教養や知識」「自分で問題を発見し、解決を図る能力」「自学自習の姿勢」「専門分野の研究能力」が昨年度同様に比較的高い割合を示しており、本学部の教育の特長がよく表れている。一方、「専門的な知識と技術」が昨年度より大きく減少しているが、これは回答者の中の「学生・院生」の割合が昨年度より減少し、「社会人」が増加したことに伴うものと思われる。また、「外国語の能力」「企画力や創造的思考力」「コミュニケーション能力」も昨年度より若干減少している。回答数が特に少ない項目は、「実行力」（回答数1）「リーダーシップ」（回答数0）であった。こうした傾向も本学部の教育の特色とはいえるかもしれないが、中・長期的に動向を注視していく必要がある。

【自由記述欄】

Q.04「文学部での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に教えてください。」
全体的な傾向としては、様々な分野が選択できて研究課題などが自由に決定できること、学生の自主性を重んじる指導を良い点とする回答が多く、本学部の特長をよく伝えている。加えて、科目選択の自由度が高いために、自分の専門分野だけではなく、他の分野も含めて幅広く学ぶことができることも指摘されている。総じて、自由・自主の風潮を指摘する回答が多くみられた。

以下に特徴的な回答を列挙する。

- ・あれこれ管理されるのではなく、そっとしていてもらえること。
- ・課題発見能力が身についたところ。
- ・卒論執筆で自分で考えて論文化したこと。
- ・他の大学と比べて蔵書が豊富なので、自分の大学内のみでレポートが作り易かったと思う。
- ・分野が多岐にわたっており、自分の専攻以外の専門単位をとることで様々な分野の学問に触れることができたのが良かった。
- ・自由に興味関心に応じて授業をくめること。
- ・専修配属以降、研究について一から教えていただき、また妥協を許さず先生方に教授していただいたおかげで、学ぶことの本当の面白さや社会人になって以降に必要となる問題解決能力など様々な力が身についたと感じる。
- ・学生一人ひとりの自主性を重んじているところ。
- ・ものごと・現象の捉え方のアプローチが豊富にあり、さらにそれぞれの方法論において一流のメソッドが学部内にあったこと。

Q.05「文学部での勉学について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に教えてください。」

全体的な傾向は、Q04で自由度の高さ、自主性を良い点として挙げつつも、もう少し指導やサポートをしてほしいという回答が多く見られた。これは盾の裏表ではあるが、検討が必要であろう。

以下に特徴的な回答を列挙する。

- ・専修や研究室が細分化されているわりに、専修登録までの猶予が短い。文学部科目は2回生から受講可能なものも多いのに、2回生の10月には専修を選ばなくてはならないため、実質半期しか吟味する機会がない。これと関連して、近い専門分野の講義をなるべく同じ曜時限に被せないでほしかった。

・論理構成を勉強させた方がいい。ピラミッドストラクチャーなど、ビジネスの場面でも論文にでも役立つと考える。

・個人が頑張れないとどうしようもないこと。

・放任な所があって、私はコミュニケーション能力が足りなかったため、学習でつまづいた時に自力で立ち上がる事も誰かに質問する事も出来ず、その結果授業についていけずに留年してしまいました。先生方に、逐一落ちこぼれの面倒を見て下さいとは言いません。一案として、院生の方でも良いのですが、一度、落ちこぼれ向けの超基礎的な学習プリントなどを一通り用意してみてもどうでしょうか。以降は同じプリントを焼き直せば良く、それ以上の手厚さまでは求めようと思いません。落ちこぼれ学生・コミュ障・引きこもり学生に対する対応として、一般的には「院生が時間を取って相談に乗ってくれる」「カウンセラーの先生を設置する」などと言った【人対人】の策が練られがちです。しかし、腐っても京大生ですので、学習のつまづきについては「本格的につまづく前に」フォロー教材があれば自力で立ち上がれるように思いますし、そもそも他人を頼れるなら先に頼っています。自習教材さえ自分で見つけるのが京都大学の学生に真に求められる力でしょうが、そこに及ばず、かつ対人スキルに疎い学生には、補助教材を充実させるという対応も効果があるのではないかと思います。

・教員の教育的関わりが少ない点。確かに過度な干渉は京大生のような強い個性を持つ学生にとっては逆効果であろうが、一定の教育的関わりは学問の動機づけとして必要である。放任主義は京大文学部の良き伝統ではあるが、それを言い訳にして教育をおざなりにする教員がいるとすれば、それは間違っていると思う。

・文学専攻の場合、卒業後はよっぽどの愛着がなければ作品に触れる機会がない。しかし作品を理解するために必要であった知識は教養として社会人同士の雑談で有用（とくにある程度の役職に就いている方々）。基本は学生個人で調査するが、そういった時代や思想に関する講義がもっとあってもいいと思う。

アンケート名 2019年度 卒業後・修了後3年次アンケート

部局 文学部

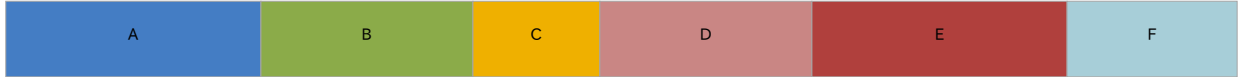
対象者数 159

回答者数 29

回答率 18.2

結果 (Q.01) あなたが属していた系(専攻)を教えてください。

- A: 哲学基礎文化学系(思想文化学専攻)(6票/20.7%)
- B: 東洋文化学系(文献文化学専攻・東洋系)(5票/17.2%)
- C: 西洋文化学系(文献文化学専攻・西洋系)(3票/10.3%)
- D: 歴史基礎文化学系(歴史文化学専攻)(5票/17.2%)
- E: 行動・環境文化学系(行動文化学専攻)(6票/20.7%)
- F: 基礎現代文化学系(現代文化学専攻)(4票/13.8%)
- G: 無回答(0票/0%)



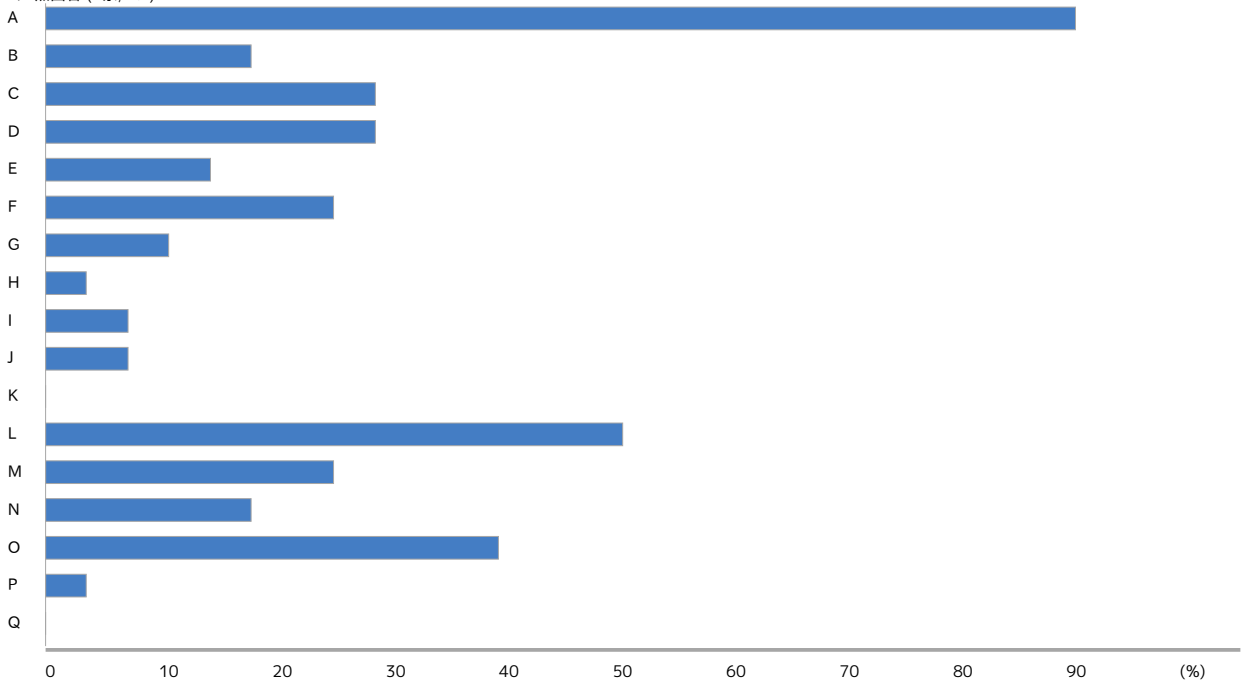
(Q.02) あなたの現況について教えてください。

- A: 社会人(一般企業等で就労)(18票/62.1%)
- B: 社会人(官庁・地方自治体等で就労)(6票/20.7%)
- C: 社会人(教員・司書等の専門職として就労)(2票/6.9%)
- D: 社会人(非就労)(0票/0%)
- E: 学生・院生(京都大学)(3票/10.3%)
- F: 学生・院生(他の大学)(0票/0%)
- G: 学生・院生(その他の学校)(0票/0%)
- H: その他(0票/0%)
- I: 無回答(0票/0%)



(Q.03) 文学部(文学研究科)での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について以下より選択してください(複数選択可)。

- A: 一般的な教養や知識(25票/86.2%)
- B: 社会的な常識(5票/17.2%)
- C: 専門的な知識と技術(8票/27.6%)
- D: 専門分野の研究能力(8票/27.6%)
- E: 国際感覚や国際性(4票/13.8%)
- F: 外国語の能力(7票/24.1%)
- G: 企画力や創造的思考力(3票/10.3%)
- H: 実行力(1票/3.4%)
- I: 協調性やチームワーク(2票/6.9%)
- J: コミュニケーション能力(2票/6.9%)
- K: リーダーシップ(0票/0%)
- L: 自分で問題を発見し、解決を図る能力(14票/48.3%)
- M: 自己管理能力(7票/24.1%)
- N: 倫理観(5票/17.2%)
- O: 自学自習の姿勢(11票/37.9%)
- P: その他(1票/3.4%)
- Q: 無回答(0票/0%)



(Q.04) 文学部（文学研究科）での勉強について、特にどのような所が良かったか、自由に教えてください。

●回答無し

(Q.05) 文学部（文学研究科）での勉強について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に教えてください。

●回答無し

(Q.06) 振り返ってみて、あなたは文学部（文学研究科）で学べたことに満足していますか。

- A: 十分に満足している。(14票/48.3%)
- B: それなりに満足している。(12票/41.4%)
- C: どちらとも言えない。(1票/3.4%)
- D: あまり満足していない。(2票/6.9%)
- E: 満足できず、後悔している。(0票/0%)
- F: 無回答 (0票/0%)



修了後3年次アンケート（平成31年度実施）集計結果

京都大学文学部・文学研究科では、卒業・修了して社会に出られた方や進学された方などから、改めて本学部・研究科を振り返って評価していただくために、卒業後・修了後3年次アンケートを実施し、その結果を公開しています。ご協力いただきました卒業生・修了生の皆様に、お礼申し上げます。

【実施時期】

令和元年10月24日～令和元年11月17日

【実施方法】

連絡先住所が判明する平成28年度修了生（修士72名、博士27名）に依頼状を郵送し、京都大学アンケート支援システムにて回答をお願いした。修士課程修了生の回答は8、回答率は11.1%で、昨年度より減少している（昨年度は15名、31.3%）。博士課程修了生からの回答は6、回答率は22.2%で、昨年度より若干減少した（昨年度は8名、36.4%）。

【結果の概評】

〈修士課程〉

Q.06「振り返ってみて、あなたは文学研究科で学べたことに満足していますか」では、1名を除き全員が「充分」または「それなり」に「満足している」と回答していた。全体としては文学研究科の教育に対する満足度の高さが窺われる。

Q.03「文学部での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について以下より選択してください」では、今年度も昨年度同様に回答がかなりばらけていた。比較的高い選択率を示しているのは、「一般的な教養や知識」「専門的な知識と技術」「専門分野の研究能力」といった知識や能力に加えて、「自分で問題を発見し、解決を図る能力」「自学自習の姿勢」であり、本研究科の教育の特長がよく表れている。また、昨年度に選択率が増加した「国際感覚や国際性」「協調性やチームワーク」「コミュニケーション能力」についても今年度も同程度の選択率であり、本研究科の近年の教育の特徴を示していると思われる。

〈博士課程〉

Q.06「振り返ってみて、あなたは文学研究科で学べたことに満足していますか」では「どちらともいえない」と回答した1名を除き、他はすべて「充分」または「それなり」に「満足している」と回答し、本研究科の大学院教育への満足度の高さを示している。Q.03「文学部での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について以下より選択してください」では、やはり「専門的な知識と技術」「専門分野の研究能力」「自分で問題を発見し、解決を図る能力」「自主学習の姿勢」の項目の選択率が高く、博士課程の特長といえるだろう。一方で「国際感覚や国際性」の選択率は減少した。専門性の高さを示す選択は、修士修

了者と比較して、博士課程になって顕著になる。これは、近年の修士課程の傾向（研究者養成から学部よりは高度な専門知識をもつが、研究者になるわけではない人材養成）を示しているのかもしれない。

【自由記述欄】

Q.04「文学研究科での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に教えてください。」

全体の傾向は学部卒業後 3 年次アンケートと同様で、修士卒業者も博士卒業者も、自由度の高さ、自主的な研究姿勢が身につくことをもっともよい点として挙げている。研究室や図書館といった研究環境の充実を指摘する回答もみられた。

個々の回答を以下に列挙する。

〈修士課程〉

- ・自由な学風。
- ・レベルが高かった。
- ・自分のしたい勉学を自分のやり方・自分のペースでできるところ。
- ・研究室と図書館の環境が充実しており先生や先輩、同級生に恵まれていた。

〈博士課程〉

- ・自由な学風のなかで深い思考力を持って勉学できたこと。また、卒業後も、系ゼミナールを通じて学部生の方々に講義という形でのプレゼンテーション能力を磨けたこと。
- ・自由な時間が多く、一方で授業や図書館が充実しているため、自主的に学習するには最適な環境だった。
- ・自身の興味を自由に追求できた点。
- ・興味のあることについて、自由にのびのびと研究できたのが良かったです。
- ・大きく外れること以外は、自由であったこと。

Q.05「文学研究科での勉学について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に教えてください。」

こちらも全体的な傾向は、学部卒業後 3 年次アンケートと変わらない。自由度・自主性の高さが長所である半面、研究の進め方や方法論についてのサポートを求める声や、教員との距離が遠いことを指摘する意見があった。また、博士論文提出に向けた段階的な指導を求める意見、学振 PD の申請資格の改訂（博士号の必須化）などに応じた博士論文指導の対応を求める意見は、今後検討していくべき点であろう。

個々の回答を以下に列挙する。

〈修士課程〉

- ・不満点はない。
- ・前期課程にいました。皮肉にも文学研究科の中にも「人文学不要論」があり、専門家を目指す覚悟のある人以外はお断り、という空気がありました。私自身は、学部の延長(モラトリアム)で文学研究科に来てしまい、専門家への狭き道にも進める覚悟も能力もなかったので、去りました。大学院も将来の展望にかかわらず、のびのび自由に学べる場であってほしかったです。あと、地下図書館が怖かった。あそこで地震にあったら…。
- ・研究の進め方や方法論についての指導が丁寧であればよかったと思う。

〈博士課程〉

- ・研究室内で定められている博士論文提出条件がかなり厳しいが、課程在籍中にそれをどのようにクリアしていくかについてはほとんど具体的な指導がなかったこと。結果的にスケジュールが延び延びになって論博に移行している人数も多いが、教員が博士課程 1 年目から、論文投稿から掲載までの具体的ステップをもう少しサポートしてもよいのではないかと思う。また、学振 PD の申請資格の改訂 (博士号がないと応募できないようになった) の影響が研究室の指導体制には全くみられないが、これは学生の経済状況を悪化させる事態を招いているのではないかと思う。
- ・語学がもう少し手厚くサポートされていると良かったように思う。文学研究科は他と比べて、学年が上がってから新しい語学を始めようとする人が多いと思うが、教養で一回生に混ぜて授業を受けるのは制度上難しく、独学せざるを得ないケースが多いように感じる。
- ・文科省による各研究室への研究費の削減。
- ・素晴らしい先生たちがいたのに、研究室をお尋ねしづらかった。

アンケート名 2019年度_修士_修了後3年次アンケート

部局 文学研究科

対象者数 72

回答者数 8

回答率 11.1

結果 (Q.01) あなたが属していた系(専攻)を教えてください。

- A: 文献文化学専攻・東洋系 (2票/25%)
- B: 文献文化学専攻・西洋系 (1票/12.5%)
- C: 思想文化学専攻 (2票/25%)
- D: 歴史文化学専攻 (2票/25%)
- E: 行動文化学専攻 (0票/0%)
- F: 現代文化学専攻 (1票/12.5%)
- G: 無回答 (0票/0%)



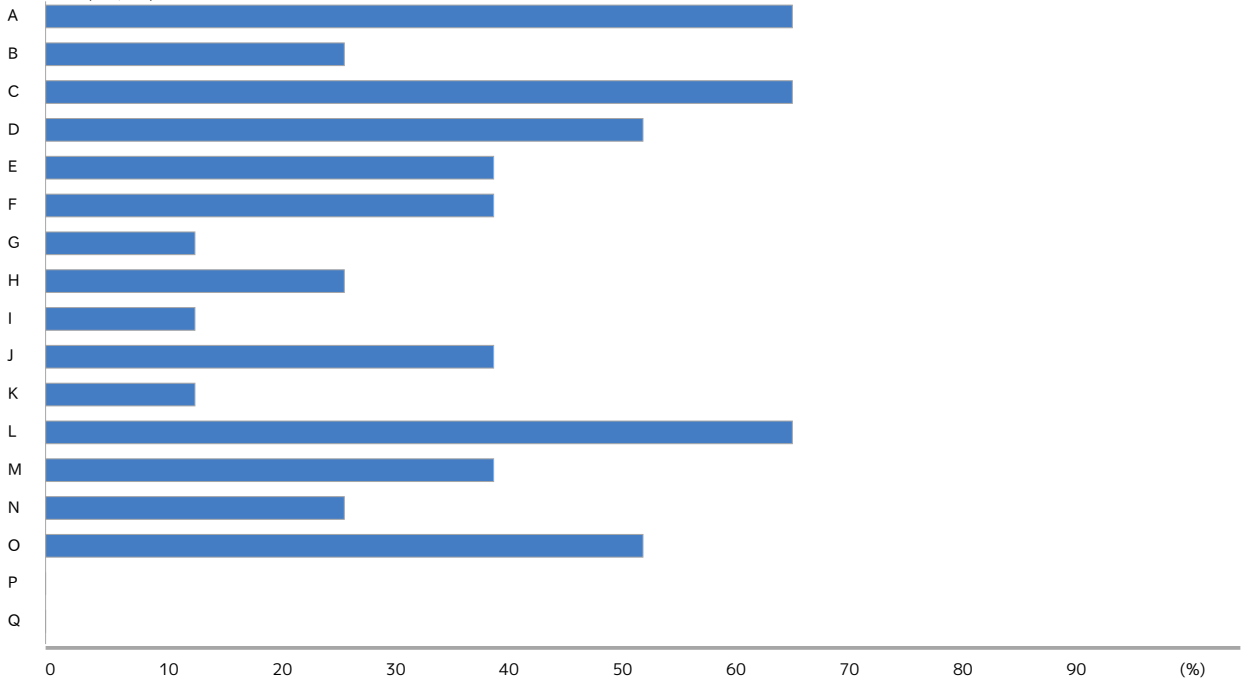
(Q.02) あなたの現況について教えてください。

- A: 社会人(一般企業等で就労) (3票/37.5%)
- B: 社会人(官庁・地方自治体等で就労) (1票/12.5%)
- C: 社会人(教員・司書等の専門職として就労) (4票/50%)
- D: 社会人(非就労) (0票/0%)
- E: 学生・院生(京都大学) (0票/0%)
- F: 学生・院生(他の大学) (0票/0%)
- G: 学生・院生(その他の学校) (0票/0%)
- H: その他 (0票/0%)
- I: 無回答 (0票/0%)



(Q.03) 文学研究科での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質を教えてください(複数選択可)。

- A: 一般的な教養や知識 (5票/62.5%)
- B: 社会的な常識 (2票/25%)
- C: 専門的な知識と技術 (5票/62.5%)
- D: 専門分野の研究能力 (4票/50%)
- E: 国際感覚や国際性 (3票/37.5%)
- F: 外国語の能力 (3票/37.5%)
- G: 企画力や創造的思考力 (1票/12.5%)
- H: 実行力 (2票/25%)
- I: 協調性やチームワーク (1票/12.5%)
- J: コミュニケーション能力 (3票/37.5%)
- K: リーダーシップ (1票/12.5%)
- L: 自分で問題を発見し、解決を図る能力 (5票/62.5%)
- M: 自己管理能力 (3票/37.5%)
- N: 倫理観 (2票/25%)
- O: 自学自習の姿勢 (4票/50%)
- P: その他 (0票/0%)
- Q: 無回答 (0票/0%)



(Q.04) 文学研究科での勉強について、特にどのような所が良かったか、自由に教えてください。

●回答無し

(Q.05) 文学研究科での勉強について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に教えてください。

●回答無し

(Q.06) 振り返ってみて、あなたは文学研究科で学べたことに満足していますか。

- A: 十分に満足している。(5票/62.5%)
- B: それなりに満足している。(2票/25%)
- C: どちらとも言えない。(1票/12.5%)
- D: あまり満足していない。(0票/0%)
- E: 満足できず、後悔している。(0票/0%)
- F: 無回答(0票/0%)



アンケート名 2019年度_博士_修了後3年次アンケート

部局 文学研究科

対象者数 27

回答者数 6

回答率 22.2

結果 (Q.01) あなたが属していた系(専攻)を教えてください。

A: 文献文化学専攻・東洋系 (1票/16.7%)

B: 文献文化学専攻・西洋系 (0票/0%)

C: 思想文化学専攻 (0票/0%)

D: 歴史文化学専攻 (1票/16.7%)

E: 行動文化学専攻 (3票/50%)

F: 現代文化学専攻 (1票/16.7%)

G: 無回答 (0票/0%)



(Q.02) あなたの現況について教えてください。

A: 社会人(一般企業等で就労) (0票/0%)

B: 社会人(官庁・地方自治体等で就労) (0票/0%)

C: 社会人(教員・司書等の専門職として就労) (5票/83.3%)

D: 社会人(非就労) (0票/0%)

E: 学生・院生(京都大学) (0票/0%)

F: 学生・院生(他の大学) (0票/0%)

G: 学生・院生(その他の学校) (0票/0%)

H: その他 (1票/16.7%)

I: 無回答 (0票/0%)



(Q.03) 文学研究科での勉学を通じて身に付け、卒業後に役立った能力や資質を教えてください(複数選択可)。

A: 一般的な教養や知識 (2票/33.3%)

B: 社会的な常識 (1票/16.7%)

C: 専門的な知識と技術 (4票/66.7%)

D: 専門分野の研究能力 (6票/100%)

E: 国際感覚や国際性 (1票/16.7%)

F: 外国語の能力 (1票/16.7%)

G: 企画力や創造的思考力 (2票/33.3%)

H: 実行力 (3票/50%)

I: 協調性やチームワーク (2票/33.3%)

J: コミュニケーション能力 (2票/33.3%)

K: リーダーシップ (1票/16.7%)

L: 自分で問題を発見し、解決を図る能力 (6票/100%)

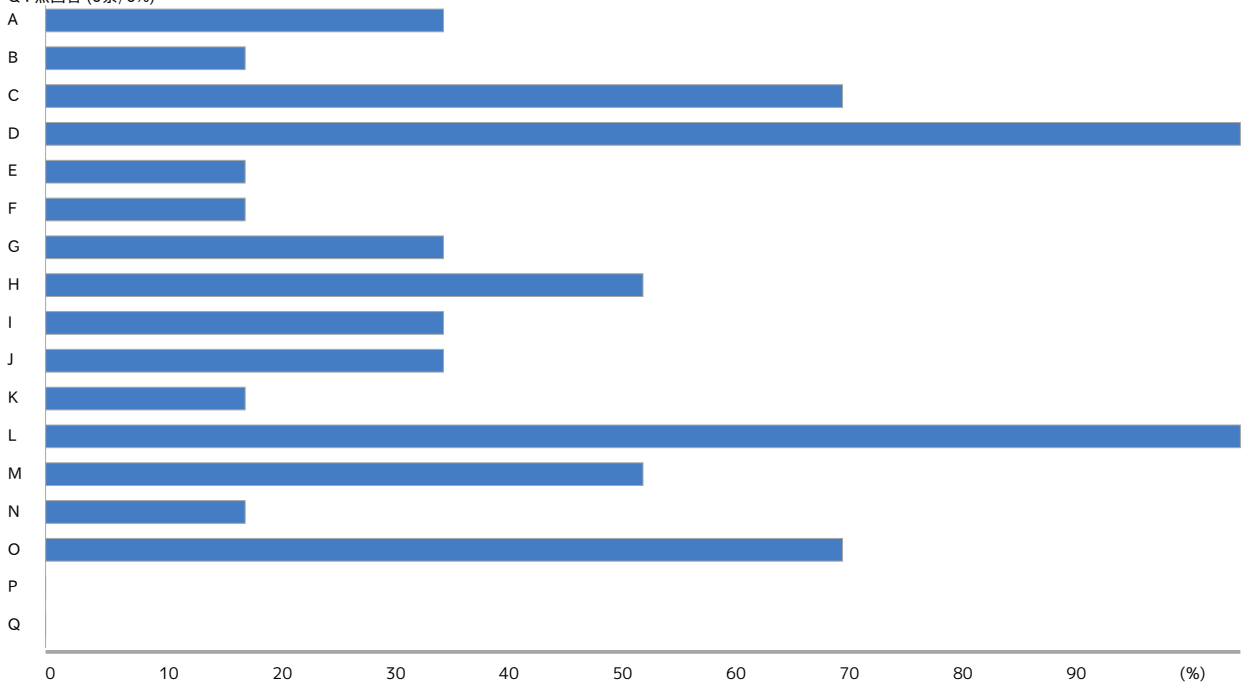
M: 自己管理能力 (3票/50%)

N: 倫理観 (1票/16.7%)

O: 自学自習の姿勢 (4票/66.7%)

P: その他 (0票/0%)

Q: 無回答 (0票/0%)



(Q.04) 文学研究科での勉強について、特にどのような所が良かったか、自由に教えてください。

●回答無し

(Q.05) 文学研究科での勉強について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に教えてください。

●回答無し

(Q.06) 振り返ってみて、あなたは文学研究科で学べたことに満足していますか。

- A: 十分に満足している。(3票/50%)
- B: それなりに満足している。(2票/33.3%)
- C: どちらとも言えない。(1票/16.7%)
- D: あまり満足していない。(0票/0%)
- E: 満足できず、後悔している。(0票/0%)
- F: 無回答(0票/0%)

